

1

令和2年

# 心の生涯学習誌 れいろう



(れいろうカレッジ) 今月のテーマ

# 今年こそイライラしない

辻 かね

モラロジー研究所  
生涯学習講師

安藤俊介

日本アンガーマネジメント協会  
代表理事

新連載

本のソムリエおすすめ本

親子で語り継ぎたいふるさと偉人伝 白駒妃登美

イマドキの幸せ子育て孫育て

思春期の処方箋

ぼくらの未来スケッチ

清水克衛

棒田明子

花まる学習会

# 思春期 の処方箋

1



花まる学習会 代表  
たかはままさのぶ  
**高濱正伸**

反抗し、秘密を持ち、葛藤で心をヒリヒリさせている思春期の子どもたち。この時期の接し方について悩むすべてのお父さんお母さんに、「花まる学習会」の講師たちが「心の処方箋」をお届けします。

## 思春期の子どもは、これまでとは「別の生き物」。 接し方で親子関係は変わる。

ります。

子どもが自立に向けての成長を始めるこの時期に、親がそれまでと同様の対応をしているのは、すでに蛹から蝶になつていて、いもむしのときと同じように「葉っぱを食べなさい」と言つているようなもの。

「期末テスト近いけれど、勉強しているの?」という親の心配に、「うるさいなあ、今やろうと思つていたのに!」と言い返すのは、健全な成長の証です。思春期に入ったかなと思ったら、それまでの子どもとは「別の生き物」と考えて対応していく必要があります。

### 外の師匠を見つけよう

もし、この時期に「子どもの関係がうまくいかなくなってきたな」と感じたならば、それは「大人が接し方を変える必要がある」ということに気づくことが大切です。それが思春期以降、親子関係の基盤を築くことにつながります。

思春期の子育ての悩みは本当に幅広いですが、突き詰めていくと、大概は

「親の言うことを聞かない」という壁にぶつかります。

親の言うことを聞かなくなつたら、「外の大人に任せることになった」という認識を持つていれば、親としての動搖も大きくならないでしょう。

この家族でもない、学校の先生でもない、「ななめの関係」にある大人(例えば、部活の監督や塾の先生など)が大切な存在となります。私はこれを「外の師匠」と呼んでいます。

親が言つてもまつたく聞かないことでも、外の師匠のひと言であればすぐになにか言つてしまふのです。「うちの子、家でダラダラして、まったく勉強しないんだよ」という悩みも、尊敬する師匠からの言葉であれば、素直に聞けることが多いのです。

思春期は特に、親も子どもも頼れる「外の師匠」を見つけておきましょう。「親子の問題は、親子で完結させなくては」と思う必要はありません。子どももどんどん外の世界に出て、多くの大人に出会い、その中で心を許せる大人に出会うことも、この時期に経験してほしいことの一つです。

### 思春期は同性の親の出番

では、思春期に親の出番はまつたくないのか? そなことはありません。特に、同性の「父親と息子」「母親と娘」は、これまでとは異なる視点での関係づくりを意識してみてください。

幼児期に重要なのは「愛としつけ」。「嘘をついてはいけない」など、いわゆる「正論」をはつきりと伝え続けましょう。「基準を示す」ことが大切で、子どもがそれから先の人生を歩んでいくときの軸となります。

そして思春期に突入したら、今度は、「本音で話す」ことを意識します。

世の中はきれいごとばかりではありません。厳しい現実——大事なものを守るためにつく嘘もある。お金が大事な局面に立つこともあるかもしれない——など、実社会を生きるための本音を教えるのも親の役割です。

体の変化や進路選択、恋愛のことなど、その時期に悩み、考えることについて、子どもは親の経験や本音を聞きながつているのです。

皆さん、はじめまして。この連載では、勉強や進路選択、部活動、ゲーム、いじめなどのさまざまなものから「思春期の子育て」についてお伝えします。

三十年以上、教育現場で多くの子どもたちを指導してきた中で得た知見が、子育てに悩む保護者の皆様のお役に立てば幸いです。

### いもむしから蝶へ

「思春期」を迎えるタイミングはそれですが、九歳から十一歳のあたりで子どもは大きく成長します。身体的な変化に加え、精神的にも大きく変貌を遂げるといつてもいいでしょう。

その変貌の前、誰か(多くは母です)にしがみついて生きている幼児期には、家庭のあり方、母の存在が大きな影響力を持ち、「愛としつけ」がもつとも重要と考えています。

十歳を過ぎて、脳や体の著しい変容を経て思春期に入った子どもは、聴く音楽や笑いのポイントだけでなく、世界の見え方もそれまでとは大きく変わることを考えています。

では、思春期に親の出番はまつたくないのか? そなことはありません。特に、同性の「父親と息子」「母親と娘」は、これまでとは異なる視点での関係づくりを意識してみてください。

幼児期に重要なのは「愛としつけ」。「嘘をついてはいけない」など、いわゆる「正論」をはつきりと伝え続けましょう。「基準を示す」ことが大切で、子どもがそれから先の人生を歩んでいくときの軸となります。

そして思春期に突入したら、今度は、「本音で話す」ことを意識します。

世の中はきれいごとばかりではありません。厳しい現実——大事なものを守るためにつく嘘もある。お金が大事な局面に立つこともあるかもしれない——など、実社会を生きるための本音を教えるのも親の役割です。

体の変化や進路選択、恋愛のことなど、その時期に悩み、考えることについて、子どもは親の経験や本音を聞きながつているのです。